

日本原子力学会 第 142 回倫理委員会
議事録

1. 日 時：2024 年 2 月 5 日（月）15:00～17:30
2. 場 所：東京大学工学部 8 号館会議室+Zoom（ハイブリッド）
3. 出席者：大場委員長^{*}，手柴副委員長^{*}，神谷幹事^{*}，伊藤(公)委員，伊藤(聡)委員^{*}，
大久保委員^{*}，沖田委員，出町委員，中野委員^{*}，中村委員，福家委員
(委員 14 名中 11 名出席)
後藤特別委員^{*}，小林特別委員^{*}，佐藤特別委員
※：Zoom 参加

4. 資 料：

- 倫 142-1-1 前回議事録（案）
- 倫 142-2-1 倫理委員会活動計画
- 倫 142-2-2 倫理委員会役割分担表
- 倫 142-3 倫理委員会 2024 年春の年会企画セッションに係る企画・準備について
- 倫 142-4-1 次回倫理規程改定に向けた検討について
- 倫 142-4-2 倫理規程改定検討シート
- 倫 142-5 倫理委員会規程改定案

5. 議事概要：

(1) 前回議事録について

大場委員長から資料 142-1-1 に基づき説明があり、内容について特に異議はなく、了承された。

また、大場委員長から、委員会の活動状況の学会理事会報告の際に、倫理委員会としては今後は対面+Web によるハイブリッド開催を実施していきたい旨を説明し、理事会では特に異議はなかった旨の報告があった。

(2) 活動計画および役割分担について

手柴副委員長から資料 142-2-1、142-2-2 に基づき説明があった。主な議論等は以下のとおり。

- ・倫理研究会に関して、2023 年は実施できなかったが、従来、年会・大会の企画セッションとは異なり、倫理研究会は業務に倫理が関係する方、倫理に関心がある方などを対象に企画してきた。このような位置づけに基づき、倫理研究会の開催について検討していきたい。
- ・2022 年の 20 周年シンポジウムを契機として、若手連絡会（YGN）と連携した企画を検討することとしており、YGN でも検討することになっていたが、その後の状況等について、大場委員長が YGN 川合会長に確認することとした。
- ・技術倫理協議会の予実績：第 120 回 11/20、第 121 回 1/22、第 122 回 2/19

(3) 2024 年春の年会企画セッションについて

伊藤(公)委員から資料 142-3 に基づき説明があり、引き続き準備を進めていくこととした。主

な確認事項等は以下のとおり。

- ・日程・場所は、3月28日（木）13:00～14:30、L会場（21号館4F 21-423、186人収容）となった。
- ・招待講師の意向を優先するが、事前の打合せは特段の事情がなければ実施せず、メールベースで調整、情報共有等を進めていく。
- ・総合討論を有意義なものとするため、可能な範囲でプレゼン資料（ドラフト可）を関係者間で事前共有できるように調整する。
- ・座長の手柴副委員長が参加できない場合は、伊藤委員もしくは大場委員長が対応することとする。
- ・当日は、委員会関係者は12:30頃に会場に集まり、必要な会場設営等を実施する。招待講演者は12:45頃までの集合でよいのではないかと。
- ・アンケートについては、今回もQRコードからアクセスするWebアンケートも準備する（大場委員長対応）。

(4) 次回倫理規程改定に向けた検討について

神谷幹事から資料142-4-1に基づき説明があった。改定検討の論点等についての主な議論等は以下のとおり。

- ・「個々の業務からのフィードバック（気づき）の観点」を追記しているが、各委員の職種や業務によって倫理規程の捉え方が異なると思うので、その観点からのフィードバックができればよいのではないかと趣旨。
- ・上記については、従前からある「自分事として考えることのできる文言の修正」とも関係する観点であると理解できるのではないかと。
- ・現在の倫理規程は、研究を職種としている者からすると、自分事とできる内容が薄いと感じている。
- ・研究系だからといって倫理的な行動から逃れられないはず。気づきはたくさんあるのではないかと。
- ・1F事故から13年経ち、1F事故に対する感覚が、会員の各業務あるいは地理的な距離にも応じて異なってきていると感じている。1F事故を踏まえての訴求は、意識して検討していきたい。
- ・原子力を恐れることが倫理の第一歩ではないかと。
- ・現場で業務をする方には倫理規定は遠い存在。現場で従事する方にも適用できる方法論を考えないといけないのではないかと。
- ・現場のニーズをもっと探索してから改定検討を進める方がよいのではないかと。
- ・新たに委員になって倫理規程を読むと、基本的にはストンと腹落ちする内容だと感じている。ただ、倫理規程を知らなかったことが課題だったと感じる。
- ・ネットワークコンテンツの作成・活用を通じて、倫理規程の浸透について検討してはどうか。

以上の議論を踏まえて、過去の企画セッションの振り返りも含めて各委員からの抽出作業を今一度実施し（神谷幹事から再度作業依頼メールを発出する。2月中を提出期限）、次のステップである「憲章ごとの検討あるいは論点で横串を通した検討」に進んでいくこととした。

続いて、神谷幹事から資料 142-4-2 に基づき、前回資料からの更新箇所（世代間倫理、未来倫理の観点）について説明があった。主な議論等は以下のとおりで、引き続き検討を進めていくこととした。

- ・資料 1 頁にある「基本的な理解」に異論はない。
- ・「規程」らしい表現・文言という観点で、検討していきたい。もっと自分事とできる表現はないだろうか。
- ・行動の手引 2-4 にある「…この解決に努め」は、何を努めるという訴求なのだろうか。今解決できないことを引き継いでいくという観点も重要ではないか。
- ・現世代は今ある技術の見通しあるいは価値観でしか考えることができない。そのような観点から訴求できることはないだろうか。

(5) 倫理委員会規程の改定について

神谷幹事から資料 142-5 に基づき、学会事務局から依頼のあった倫理委員会規程の改定案について説明があり、異議なく承認された。

(6) 倫理委員会活性化に関する検討

大場委員長より、倫理委員会活性化に関するアンケート結果や前回委員会での議論を踏まえて、委員会としてやるべきもの、やりたいことについてのアンケートを実施していくことの説明があった。

6. 次 回：4 月頃に開催することとし、日程については別途調整することとした。

以上